

令和8年度 小樽市立桂岡小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

- ① 前年度改善プランの定着目標の達成状況
 - ・学期末漢字まとめテストの定着目標は、5年生で目標を達成することができたが、ほかの学年は達成できなかった。
 - ・算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率は、6年生は目標を達成することができたが、ほかの学年は達成できなかった。
- ② 全国学力・学習状況調査結果（教科）
 - ・国語は、文章の内容を的確に掴んだり、構成や資料の工夫について捉えたりすることができた。一方、文章の要旨を捉えてメモにまとめたり、条件に合わせて記述したりする問題の正答率が低かった。
 - ・算数は、データのよみ取り、測定、数量の関係を式に表す問題の正答率が高かった。一方、判断理由や求積方法の説明、条件に合わせた記述問題の正答率が低かった。
- ③ 標準学力調査
 - ・5年生は、国語、算数とも平均正答率が全国値・市町村値を上回った。
 - ・2年生、4年生は、国語、算数とも平均正答率が全国値を下回った。
 - ・3年生は、国語の平均正答率が全国値を下回ったが、市町村値は上回った。算数は全国値、市町村値を下回った。
- ④ 全国学力・学習状況調査結果（児童質問調査）
 - ・「いじめはどんな理由があっても許されない」と全児童が考えており、全国・全道と比較して割合が高かった。
 - ・学習の中で端末を活用して調べたり、まとめたりすることができる児童の割合も高かった。
 - ・学校の授業以外の学習時間（家庭学習）が短い。
- ⑤ 家庭生活及び学習の状況等
 - ・1日の家庭学習の目標時間（学年×10分+10分）を達成した児童の割合は、1年生 83%、2年生 58%、3年生 50%、4年 25%、5年生 33%、6年生 21%であった。
 - ・家庭読書の時間を1日10分以上の目標を達成した児童の割合は、1年生 58%、2年生 58%、3年生 40%、4年生 19%、5年生 83%、6年生 57%であった。
 - ・学習以外でのスクリーンタイム1日2時間以内の目標を達成した児童の割合は、1年生 67%、2年生 83%、3年生 70%、4年生 44%、5年生 58%、6年生 57%であった。
 - ・朝食を週8割程度摂取して登校する児童の割合は、1年生、2年生、5年生、6年生は100%、3年生 70%、4年生 88%であった。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
2年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
3年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
4年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
5年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童を100%にする
6年	学期末漢字まとめテストの正答率が75%以上の児童100%を維持する。

<算数科>

学年	定着目標
1年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を90%以上にする
2年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を90%以上にする
3年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
4年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
5年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする
6年	算数専科教員が作成した計算まとめテストの平均正答率を80%以上にする

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・1日の家庭学習の時間を学年×10分+10分以上
2年	・家庭読書の時間を1日10分以上
3年	・学習以外でのスクリーンタイムを1日2時間以内
4年	・毎日朝食を摂取して登校する児童を100%
5年	
6年	

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取り組み

- ①学級経営を基盤とする授業づくりを主題とした校内研修との関連を図る。
- ②チャレンジテストを有効活用し、学習内容の定着を図る。
- ③デジタルドリルを活用し、反復学習や個別最適な問題への取り組みを図る。
- ④朝学習等の時間に、漢字や計算の反復練習をする。
- ⑤長期休業中における補充学習で、既習事項の定着を図る。

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取り組み

- ①「小樽 授業づくりの5つのSTEP!!」の「基盤②共感的な人間関係の育成」を重点化し、見通しと振り返り、対話的な学習を位置づけた授業づくりを実施する。
- ②端末を活用し、考えをまとめたり交流したりする場を位置づける。
- ③主体的に学ぶことができるように、授業のUD化を図る。

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取り組み

- ①「家庭学習がんばろう週間」を年間4回実施し、学習習慣の定着を図る。
- ②「生活リズムチェックシート」を活用して日常生活習慣を振り返ったり目標を設定したりするなどして、自己管理能力の育成を図る。
- ③保護者会、学校だより、学級通信などを通じて「おたるスマート7」の取り組みを啓発する。

4 実施計画

年・月	計 画 内 容
R8・4	・学習規律、朝学習及び放課後学習、家庭学習の方針を全職員で共通理解 ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施による、児童の学力定着状況の把握 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施による、児童の学力定着状況の把握 ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ○R 7 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（2年・3年・4年・5年）
5	
6	○標準学力調査結果分析・共有
7	・家庭学習がんばろう週間① ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・読書チャレンジ週間 ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・夏休みスマイル学習の実施 ・自己評価、児童・保護者アンケートの実施
8	・チャレンジテストの結果分析・共有 ・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析 ○R 7 全国学力・学習状況調査結果分析・共有 ・家庭学習頑張ろう週間②
9	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10	・読書チャレンジ週間 ・家庭学習がんばろう週間③
11	・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
12	・自己評価、児童・保護者アンケートの実施 ・冬休みスマイル学習の実施
R9・1	・チャレンジテストの結果分析・共有 ・自己評価、児童・保護者アンケート結果分析
2	・家庭学習頑張ろう週間④ ・保護者会（学習・生活習慣の啓発活動） ・全国学力・学習状況調査の過去問題の実施
3	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ○新学力向上改善プランの作成

（1）基礎学力の確実な定着を図る取り組み

- ①学校評価（自己評価）における結果の分析（校内研修に関連した項目）を行う。
- ②チャレンジテストの実施状況及び結果の把握を行う。
- ③児童のデジタルドリルの取組状況の把握・分析を行う。
- ④児童の漢字や計算の反復練習の実施状況の把握・分析を行う。
- ⑤児童の長期休業中における補充学習の参加状況を把握する。

（2）確かな学力を育む授業改善の取り組み

- ①学校評価（自己評価）における結果の分析（授業改善に関連した項目）及び児童アンケートの分析（学び方に関連する項目）、並びに日頃の授業交流を通して職員間での確認を行う。
- ②チャレンジテスト及び単元末テストの結果を分析する。

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣を育む取り組み

- ①学校評価（自己評価）及び児童・保護者アンケートの結果を分析する。
- ②生活リズムチェックシートから家庭学習の時間、朝食の摂取状況、スクリーンタイムの時間を把握、検証する。

5 評価方法